

能代科技高の3年生5人

## ごみ収集箱を製作 地元自治会に寄贈

### 跳ね上げ式扉、使いやすく

能代市の能代科技術高校「みステーション」1基を授業建設科建築コースの3年生5人の一環で製作し、24日に市内人が、木製のごみ収集箱「こ」の出戸第4自治会に贈った。



寄贈したごみ収集箱と、製作した能代科技高の生徒

寄贈は、授業の成果を地域貢献に生かそうと前身の能代工業高が2011年度に始め、21年度の学校統合後も続けている。

収集箱は幅120センチ、奥行き71センチ、高さ98センチでスギとマツを使った。前年は開口部を前面に設けてロールカーテン式のネットを取り付けたが、子どもから高齢者まで幅広い年代が利用しやすいように構造を見直し、扉が跳ね上げ式のタイプにした。

昨年6月に作業を始め、12月に完成。袴田悠瞳さんは「雨が中に入らず、開け閉めもしやすいよう、扉に取り付けるプラスチック製の波板の長さ調整に苦労した」と振り返った。

寄贈を受けた小玉幸徳自治会長は「町内のごみステーションは自前で作っていたが、なかなかうまくいかなかった。大切にしたい」と話した。(斎藤将典)